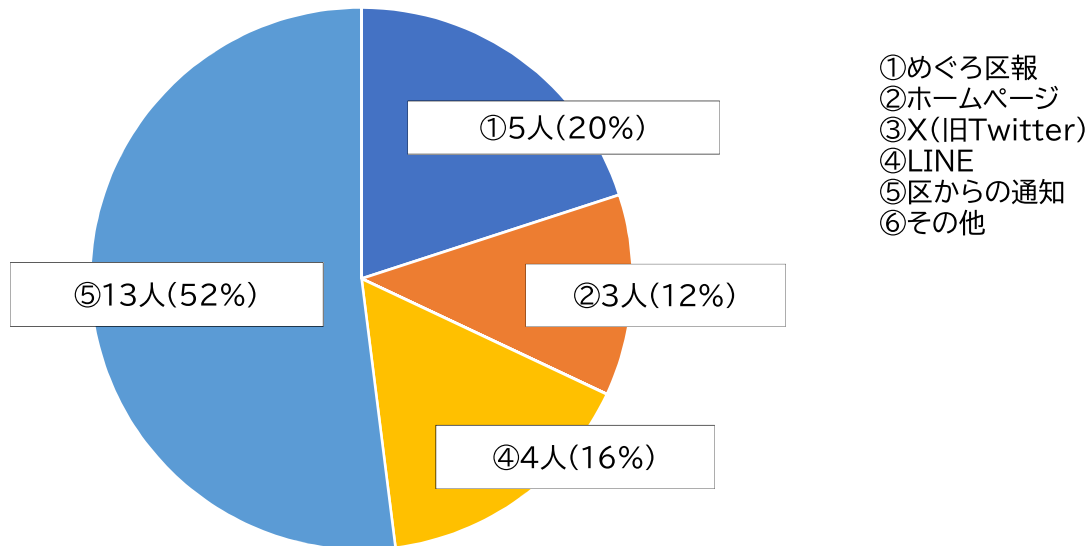


令和5年度目黒区居住支援セミナー(令和5年10月13日実施)
アンケート集計結果

- ・ 参加者 49名(会場 27名 オンライン 22名)
- ・ アンケート回答数 23名(会場 16名 オンライン 7名)【回答率47%】

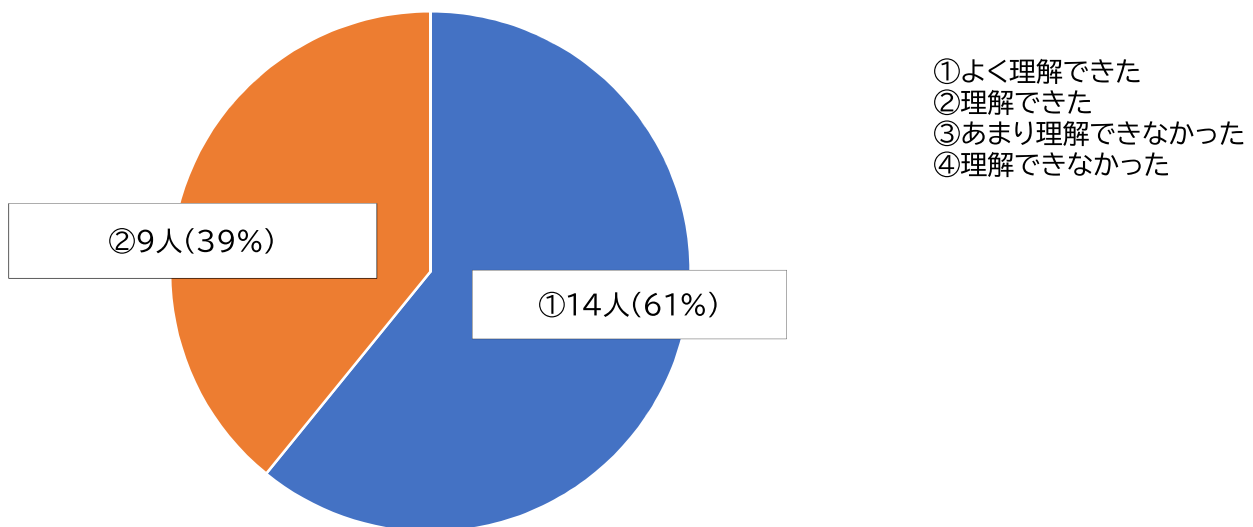
【質問1】 この講座を何で知りましたか？(複数回答可)

めぐろ区報	ホームページ	X(旧Twitter)	LINE	区からの通知	その他
5	3	0	4	13	0



【質問2】 講演「誰もが人間らしく住むために ～福祉型居住支援の意義～」について

よく理解できた	理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
14	9	0	0



(裏面へ続きます。)

【質問3】 セミナーの内容について、主な意見や感想

ご高齢の方の相談を受けていると、「年金では家賃が払えなくなった」「取り壊しで立ち退くよう言われた」という相談だけでなく、不動産屋等から、「入居者に認知症が出てきたので、大事になる前に施設に入れてほしい」「ゴミ屋敷化しているので、行政で片づけてほしい。片付かなければ契約更新しない」といった相談もあります。

住居に困った方をどう支えるかだけでなく、住み続けられなくなりそうな方をいかに支援するか、の視点も大事であると再認識できました。

以前は具体化しませんでしたでしたが、不動産関係の業種の方々にも、見守りネットワークに参加いただく、認知症サポーター・見守りサポーター養成講座に参加いただくなど、そういったアプローチも必要なのかと感じました。

また、家賃助成に関して、高齢者はファミリー層と違って、年金等の収入が増える目途がほとんどないため、6年間という支給期限の間に、現在の年金額でも支払い可能な住居に転宅するといった支援も、一連の流れで行えるような制度であると安心できるのではと思いました。

有意義な研修であると感じました。ありがとうございました。

中島先生が取り組んできた住宅政策や居住支援にかける強い想いが伝わり、大変勉強になりました。ありがとうございました。

家賃が高い、公的住宅が他区に比べ少ないといった特性のある目黒区ですが、今後急速な高齢化が進む中、住宅施策と福祉施策の連携、融合について考えさせられました。

目黒区内にある民間賃貸住宅で古い建物で空き部屋になっているところは大変多いと感じている。

そういう民間賃貸住宅・アパートの大家さんのところに交渉していけばセーフティネット住宅、専用住宅になれる可能性は高いのではないかと考える。

そうした可能性から積極的に不動産関係団体等と対応をつめて協力を集めていければと考える。

とてもいい講演でした。先生の講演内容を理想論で終わらせることなく、私のような住宅を供給する側と基礎自治体の連携がますます必要と感じました。

人間の尊厳が大切にされ、人間らしく暮らしていくかはとても大切で、行政・民間・地域住民の理解が深められるよう自治体・国とつながる施策の必要性を感じました。

- ・住宅所管と福祉所管の横の連携による居住支援
- ・家が見つかったからその方がその地域で安心・安全に暮らし続けることができるか
- ・住宅を供給してくれる大家さんの確保←家主さんが安心して貸してくれるよう行政側が支援する必要があるのではないかと

あらためてマンション管理人との連携の大切さを感じました。
入居後も停電や緊急対応などの見守りが必要だと感じました。
目黒区の制度の充実している点も再認識できました。

以 上